

【配付先】

中部地方整備局記者クラブ、岐阜県政記者クラブ、静岡県政記者クラブ、三重県政記者クラブ、三重県第二県政記者クラブ、飯田市記者クラブ、伊那記者クラブ、駒ヶ根市記者クラブ、岡崎市政記者会、岡崎新聞記者会、碧南・高浜市記者会、刈谷市政記者クラブ、豊田市政記者クラブ、豊田市政記者東クラブ、安城市役所記者室、西尾市役所記者室、知立市政記者クラブ

令和元年 7 月 18 日
中部地方整備局 河川部

大規模な災害等のリスクから中部地方の水利用を守る

= 水供給の途絶回避へ 有識者検討会の第3回会合 =

中部地方整備局は、気候変動による危機的な渇水や南海トラフ地震などの大規模災害が発生しても最低限必要な水を確保できるよう、リスク管理のあり方を検討する「中部地方水供給リスク管理検討会」の第3回会合を7月24日に開催します。

第3回 中部地方水供給リスク管理検討会

- 1) 日 時 令和元年7月24日(水) 16時 開会(1.5時間内)
- 2) 場 所 名古屋プライムセントラルタワー 13階 第1会議室
(名古屋市西区名駅2-27-8)

今回の第3回会合では、前回会合で委員からいただいた意見を踏まえたリスク要因の考え方等の論点整理とともに、モデル水系(矢作川)の検討方法について、意見交換を行う予定です。

取材・傍聴について

- 会議は原則公開で行いますので、取材・傍聴をいただけます。
- 取材・傍聴の受付は15時30分から開始します。事前の申込は要りません。
- なお、傍聴については満席(約60席)となり次第、受付を終了します。
- また、撮影は会議の冒頭のみとします。
- その他、取材・傍聴の注意事項は、当日会場にてお知らせします。

問合せ先 河川部河川環境課 課長：武田、課長補佐：高木
電話(052)953-8149(課直通)

第3回 中部地方水供給リスク管理検討会 ご案内

- 日時 2019年7月24日(水) 16時 開会 (1.5時間内)
- 場所 名古屋プライムセントラルタワー 13階 第1会議室
名古屋市西区名駅2-27-8



[中央郵便局]交差点を北東方向へ約300m → [那古野]交差点を北方向へ約100m
地下鉄「名古屋駅」1番出口から徒歩約4分
JR「名古屋駅」桜通口から徒歩約7分

中部地方水供給リスク管理検討会 概要

目的

中部地方整備局管内の各地域における水供給に影響が大きいリスク要因となる外力やシナリオを検討し、水供給の停止等がさまざまな地域や利用者に与える影響と被害の程度を明らかにし、中部地方におけるリスク管理型の水の安定供給のあり方についてとりまとめを行う。

委員

敬称略
五十音順

氏名	所属	専門	備考
奥野 信宏	(公財)名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター長	地域	委員長
上之郷久展	(一社)中部経済連合会 社会基盤部長	経済	
辻本 哲郎	名古屋大学 名誉教授	河川	
富永 晃宏	名古屋工業大学 教授	水資源	
中北 英一	京都大学防災研究所 副所長・教授	水文気象	
能島 暢呂	岐阜大学 教授	防災	
本山ひふみ	愛知淑徳大学 教授	生活	

第1回

取材 5社 (朝日、読売、建通中部、建設通信、日刊建設工業)
傍聴 45名 (地方公共団体:13、建設コンサルタント:9、水資源気候:8、中部地整15)

- 日時：平成30年11月1日(木) 10時～12時 於) AP名古屋 名駅
- 議事：(1) 設置趣旨と規約の確認
(2) 水利用の状況とリスク
中部地方の特徴を紹介し、認識を共有
 - ・我が国の社会経済を支える重要ね「ものづくり」の地域
 - ・水供給の停止等が発生すると甚大な影響を及ぼすおそれ
 - ・渇水が頻発しているほか、南海トラフ地震、火山噴火など多くのリスク
- (3) リスク管理の考え方
下表の論点について、幅広く意見交換

リスク管理の考え方 視点と論点

視点1 水供給のリスク要因とその評価
論点1) 水供給のリスク要因として考慮すべき事象は何か。
論点2) それらのリスク要因は何に注目して評価すべきか。
視点2 水供給のリスク変動等の考え方
論点3) 複数のリスク要因の同時生起を考慮すべきか。
論点4) あるリスク要因の生起に伴う被害規模の潜在的な増大を考慮すべきか。
論点5) 気候変動に伴うリスク要因への影響を考慮すべきか。
視点3 水供給のリスク要因に対する対応の考え方
論点6) 水供給のリスク要因に対し、どのような目標で対応すべきか。また、全ての地域で同じ目標とすべきか。
論点7) 水供給のリスク要因に対し、どのような施策で対応すべきか。
論点8) 水供給のリスク要因に対する施策は、何に留意し組み合わせるべきか。

第2回

取材 3社 (建通中部、建設通信、日刊建設工業)
傍聴 24名 (地方公共団体:11、建設コンサルタント:3、水資源気候:7、中部地整3)

- 日時：平成31年3月5日(火) 14時30分～16時 於) AP名古屋 名駅
- 議事：(1) 議事要旨(第1回)の確認
(2) リスク管理の考え方(論点7・8)
(3) 意見を踏まえた論点整理(論点1～6)
(4) モデル水系の選定
検討方法の流れを確立するモデル水系について、意見交換の上、矢作川水系を選定
今後、矢作川水系をモデルに具体的な検討を進め、リスク要因の設定、影響・被害の想定等の検討方法を確立し、他水系に展開

2019(H31). 3. 7 (木)
日刊建設工業新聞
8面(中部欄)
承諾を得て掲載しています。

水供給リスク管理検討会

矢作川をモデル水系に

中部整備局 施策や達成目標など

中部地方整備局は5日、名古屋市内で開いた「第2回中部地方水供給リスク管理検討会(委員長・奥野信宏名古屋まちづくり公社名古屋都市センター長)」

昨年11月の初会合で議論できなかったリスク管理の二つの論点について意見を

整理。矢作川をモデル水系に選定し、リスク管理型の水供給の在り方を検討していくことを決めた。

ものづくりの拠点である中部地区で、大規模災害などにより水供給が停止すると社会経済に大きな影響が出る。このため、モデル水系の矢作川を対象に地震や老朽化などリスク要因の規

模(外力)、利用者への影響、有効と考えられる施策や達成目標の考え方などをまとめる。モデルは、▽水系にダムを有する▽水供給停止時の影響、被害が大きい▽過去に渇水などがあつた一などの観点から選んだ。確立した検討方法は他の水系にも適用する。

